

## NEWS

## 産業廃棄物処理業における リスクアセスメント研修会開催

(一社)愛知県産業廃棄物協会安全衛生委員会(加山昌弘委員長)は、2月1日(木)午前9時30分から名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)において、「産業廃棄物処理業におけるリスクアセスメント研修会」が開催され、参加者は職場の安全委員を担う担当者の60名が出席しました。

開会の挨拶で加山委員長は、「廃棄物処理業界は、産廃・一廃を合わせると度数率・強度率が極めて高いのが現状です。しかし本日の参加者の中に会社の安全診断を受けた方が1名しかいないということは残念なことです。是非本日の研修会で日々の安全への意識を高めてください。」と述べました。

研修会は、中央労働災害防止協会(中災防)中部安全衛生サービスセンター専門役 安全管理士 大竹克則氏を講師としてお招きして、「リスクアセスメント研修会」と題して講義がありました。



講師の中災防  
大竹専門役

リスクアセスメントは、①危険性又は有害性の特定 ②リスクの見積もり ③リスク低減のための優先度の設定、リスク対策の内容検討 ④リスク低減措置の実施→リスク管理、が基本的な手順です。平成28年6月から化学物質のリスクアセスメントが義務化され、SDS(安全データシート)の交付が義務付けられている化学物質について危険性又は有害性等の調査の実施、労働安全衛生法令上の措置が義務付けられています。危険性又は有害性の特定は、作業手順書から職場に潜む危険性又は有害性を把握し、機械による危険性、爆発性の物、発火性の物、引火性の物他、原材料、ガス、蒸気、粉じん等による有害性、放射線、高温、異常気圧他による有害性が挙げられました。次に災害に至るプロセス等を明らかにするには、危険予知訓練(KYT:Kiken Yochi Training)という手法があ

り、作業の状況の中にひそむ危険要因とそれが引き起こす現象を、現場で実際に作業を行い、気づいたことを話し合います。危険のポイントを明確にすることにより、指差し呼称で確認することができるため、行動する前に解決していく重要性について説明がありました。次にリスクの見積りと評価方法では、数値化する方法と数値化しない方法があり、講義の中ではリスクを見積り数値化してリスクレベルを決めました。リスクレベルの計算は、頻度+可能性+重大性=リスクポイント という足し算で計算し、合計のリスクポイントをリスクレベルに変換して割り出します。リスクの見積りポイントとして、監督者と作業者を中心として行う、見積りは複数で行い、ばらついた場合は合意できる最大値を採用する、同様なハザードとプロセスで、リスクを見積り・優先度に著しい差が生じた場合は調整する、等を挙げました。まとめとして、1.リスクアセスメントは目的ではなく手段 2.対象の選定(職場の課題を最優先) 3.三現主義(現地、現場、現実) 4.活かした安全衛生教育(安全衛生向上教育)となる、と述べ講義を終え、グループに別れ演習を行いました。演習は「製品保管搬出エリア」のイラストを見て、リスクの見積り・評価基準を算出して、演習後に各グループの代表が結果の発表を行いました。演習中は大竹講師、加山安全衛生委員長、安全衛生副委員長 平沼辰雄氏、安全衛生副委員長 渡邊 修氏が各グループを巡回し、適切なアドバイスをされていました。発表後、渡邊安全衛生副委員長(専務理事)から閉会の挨拶があり研修会は終了しました。

